

2022年度 事業報告書
2022年6月1日から2023年5月31日まで

特定非営利活動法人語りつぐ青函連絡船の会

1 事業の成果

事業名	成果
研究公開事業	いるか文庫の運営、資料収集のほか、「青函連絡船輸送状況日報閲覧システム」（デジタル公開化）の制作を進めた。次年度前半に公開する。
保存展示事業	摩周丸入館者数は新型コロナウイルス感染拡大の影響が続き前半は低迷したが後半は盛り返し、最終的には例年の80パーセント程度となった。出渠から3年が経ち船体各部のサビが目立ってきたため修復・塗装に努めた。
教育啓発事業	前年度同様ほとんど行えなかったが、2022年3月に設立20年となったため8月に記念フォーラムを開催した。また小規模ながら「夏休み ちゃれんじ！工作」を開催した（函館海上保安部と共催）。教育啓発グッズの頒布売上が予想以上に回復し、会計を助けた。
物品販売事業	売上が予想以上に回復し、特定非営利活動・会計を助けた（赤字にはなっているが人件費を補助している）。
喫茶事業	ほぼ通年休業した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
鉄道連絡船に関する資料、産業遺産の収集、調査、研究、公開事業	研究公開事業	青函連絡船を中心に船と鉄道に関する資料を収蔵公開する私設図書館（いるか文庫）の運営及び青函連絡船に関する図書の編集出版。	随時。いるか文庫は通年（水・木曜日定休）	函館駅2階いるか文庫ほか	3人	道南住民及び旅行者約10,000人	570,038
鉄道連絡船に関する資料、産業遺産の保存、管理、展示事業	保存展示事業	旧青函連絡船を活用した博物館船（函館市青函連絡船記念館摩周丸）の管理運営。	通年	函館市青函連絡船記念館摩周丸	14人	道南住民及び旅行者約50,000人	35,958,526
鉄道連絡船の歴史と文化に関する教育、啓発、情報提供事業	教育啓発事業	青函連絡船の歴史、技術、文化の学習理解、摩周丸の広報宣伝を目的とした企画展、セミナー、イベント等の実施及び物品の制作頒布。	随時	函館市青函連絡船記念館摩周丸ほか	10人	日本全国約50,000人	6,451,970
支出合計							42,980,535

(2) その他の事業

定款の事業名	事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	支出額
前項（特定非営利活動に係る事業）に関連するものを除く図書、物品等の販売事業	物品販売事業	鉄道連絡船に関連しない図書、物品等の販売。	通年	函館駅2階いるか文庫／函館市青函連絡船記念館摩周丸	6人	1,108,182
飲食店及び喫茶事業	喫茶事業	飲食物の提供。	ほぼ休止	函館市青函連絡船記念館摩周丸	1人	1,309
会員相互の交流を図る事業	会員交流事業	懇親会、見学会、旅行会等の実施。	本年度は実施しなかった			0
支出合計						1,109,491